



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 野中 直子
6号編集委員: 堀田 康弘
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



現在の学部教育: コロナ禍での1年を振り返って

教育委員長 飯島 毅彦

2020年の新年度の始まりはちょうど新型コロナウイルスの感染拡大の時期にあたり、講義、実習ともどのようなカリキュラムを組み立てていくか手探りの状態でした。講義はいち早くWeb授業の整備をすることになりました。学務課が頑張り、



google classroomのシステムを構築してくれたのがその後の体制の確立に大きく貢献しました。佐藤係長はじめ学務課の皆さんが短期間でエキスパートになりました。教員は教材を作ればよかったのですが、動画を作成することには慣れていなかったため、こうした教材の作成に慣れている美島先生、長谷川先生、坂井先生らがすぐに作業工程の教材を作成して、講習会を開き、学内の教員もそれに従って次々に教材を作成していきました。やはり、登校して行く実習の開始が一番悩ましく、登校ができない日が続いたことで、残された時間が減っていく5年生の臨床実習の開始がいつできるのかにやきもきました。毎週遅延していく開始時期に合わせたカリキュラムの改訂もしてきました。「コロナカリキュラム」という私のPCのフォルダーには各学年で5、6回の改定案が残っています。このような状況でも講義や実習の開始は、他の歯科大学と比較して早かったようです。教員の先生方の努力のおかげで学生からもWeb授業の評判は決して悪くはなく、むしろWeb授業が良かったという感想も出てきました。試験となり、この教育方法が試される時が来ました。例年より成績が良いというようなことはありませんでしたが、成績上位者の成績は良いが、下位層は広がったようでした。学生は周りを見て学習量を決める傾向がありますが、それが下位層を広げた原因の一つと考えられました。

まだ、講義はWeb、実習は半数ずつという体制は続いています。現在は学生のワクチン接種も見通しが立ち、次のステップを考えなければならない時が来ています。状況の目まぐるしい変化に教育は待たないです。現在は、低学年から学習の方法を確立する

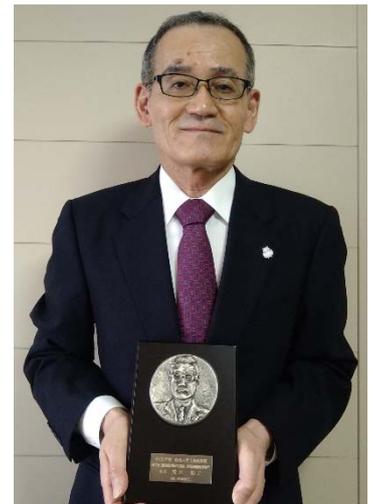
ことが求められています。昨年来、能動的な学習を進めるため教科書を自ら開いて理解を深める習慣をつけさせることが推進されています。試験対策を丸呑みする学習では国家試験までたどり着けません。このWeb授業はある意味では能動的な学習方法を身に着けるのに役立つかもしれませんが、教員の皆様の知恵を絞ってこれからの時代の教育方法を作り出していくことが期待されています。これからも先生方のご協力をお願いいたします。

上条奨学賞(教育功績部門)を受賞しました

歯科放射線医学部門 荒木 和之

このたびは栄誉ある上条奨学賞をいただき誠に光栄に存じます。

本賞は、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部ならびに富士吉田教育部における教育功績に対して授与されるもので、各学部からそれぞれ1名が選出され、計5名が先の6月6日に行われた学祖祭において表彰されました。



私は10年ほど共用試験CBTの実施責任者・副責任者を担当してきました。CBTは歯学部4年生後半の時期の臨床実習前に行う試験です。私の専門の歯科放射線学に限らず歯科学全般についての知識が問われます。そこで、全ての講座・部門の先生方にご協力をいただき学生がそれまでの総復習ができるカリキュラムの構築をめざしてきました。また、CBT作問ワークショップの実施にも参画しました。ワークショップを通じ先生方がCBTにおける良問とは何かを理解するお手伝いをし、またそこで得られた知識を学生の教育にフィードバックしていただけるような環境作りに努めてまいりました。このような経緯で、今回の受賞は歯学部の全ての先生方のご協力によるものと感謝し、これからも教育の更なる向上にむけ精励する所存です。

上條奨学賞(研究業績部門)を受賞しました

口腔生理学講座 中山 希世美

この度、「咀嚼・嚥下運動の形成および調節に関する神経機構の解明」という研究テーマで上條奨学賞を受賞しました。このような名誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。ご指導いただきました井上富雄教授をはじめとする口腔生理学講座の先生方、一緒に実験を下された大学院生の皆様にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

私は、昭和大学に赴任して以来、咀嚼・嚥下の神経メカニズムの解明に取り組んでまいりました。それ以前は、歩行運動を形成する神経回路について研究しておりましたが、咀嚼・嚥下運動と歩行運動はどちらも半自動性のリズムカルな運動であり、その基本的な運動リズムはどちらも下位中枢の神経回路で作られるなど多くの共通点があります。そのため、それまでの知識や技術を活かして研究をすることが出来ました。咀嚼・嚥下は、生命維持の根幹となる重要な機能であるにも関わらず、その礎となる神経機構には未解明の部分が多く存在しております。これまで、顎舌の協調運動を司る神経機構、脳内アミンによる顎運動の調節機構、嚥下反射を増強する薬剤の同定と作用メカニズムなどについて解明し報告してきましたが、運動リズムを作る神経回路本体は未知のままです。今後もこの分野の研究を継続し、科学の発展に少しでも貢献したいと思っております。



昭和大学学術研究奨励研究者表彰を受けました

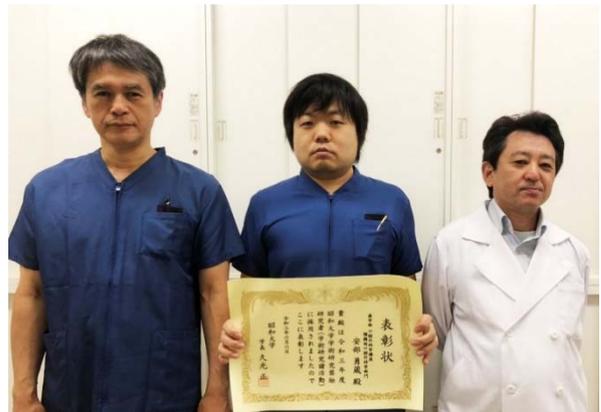
口腔腫瘍外科学部門 安部 勇蔵

この度、第11回昭和大学学祖祭において昭和大学学術研究奨励研究者表彰を受けたことを大変光栄に思います。このような栄誉を頂けたことは、代田 達夫教授、助教の椋代 義樹先生をはじめとする、口腔外科学講座の先生方のご支援、ご助言、ならびに、ご厚情の賜物であると心より感謝しております。

本研究計画では、低酸素・低栄養状態の口腔扁平上皮癌細胞におけるTPD52の細胞生存因子としての役割の解明を目指しております。口腔癌をはじめと

する腫瘍組織内部は低酸素・低栄養環境であることが多く、癌が難治化する因子となります。私は大学院において、TPD52というタンパクが低酸素環境でHIF1に依存することなく発現が上昇し、口腔扁平上皮癌細胞の生存因子として働くことを明らかにしました。今回は先の研究をさらに発展させ、癌の新規治療法開発に少しでも貢献できればと思っております。

また、この機会を通じて、改めて臨床と共に研究にも十分に望むことのできる恵まれた環境で過ごさせていただいていることを実感いたしました。これからも微力ながら、口腔医学の発展に貢献して参りたいと思っておりますので、今後ともより一層のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



指導担任・就学支援教員、ご父兄の三者面談が開催されました。

学生部長 上條 竜太郎

本三者面談はこれまで開催されたことがありませんが、今年度、6月5日の父兄会総会の開催に合わせて対面での実施を予定しました。しかし父兄会総会、幹事会等が書面決議での実施となりましたので、三者面談はWebでの開催となりました。本学では現在、従来の指導担任制度に加えて、学業成績の思わしくない学生を対象として就学支援教員が配置されています。しかし、両者がそれぞれ独立して学生の指導を行うことがほとんどです。また、ご父兄が指導担任、修学支援教員の両者と協議を行ったこともありませんでした。そこで今回、三者の連携を強化し学生の学力向上を推進するために本面談を開催しました。

今年度、2, 3, 4年生で修学支援対象となっている学生は医歯薬学部合計175名で、三者面談を希望されたご父兄が155名(88.6%)、実際に面談を行ったのは134名で実施率は76.6%と、これまでの面談と比較して極めて高いものでした。

行事予定

広報委員長 野中 直子

7月18日 歯学部オープンキャンパス

8月9日 歯学部オープンキャンパス

(いずれも動画配信予定)

第106回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会2020年大会「優秀ポスター賞を受賞しました

歯周病学講座 田中 慧介

この度、第106回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会2020年大会で発表した「Investigation of junctional epithelial stem/progenitor cells using the multicolor lineage tracing method」で、JSP/JACPポスター賞 General/Basic Research 部門「ストロマン・ジャパン賞」最優秀ポスター賞を受賞しました。アメリカ歯周病学会は歯周病治療だけでなく、審美的歯周治療やインプラント治療まで網羅するグローバルな学会です。通常であればアメリカ(ハワイ)で行われる予定でしたが、昨今の社会情勢を受け、本大会はWebにて開催されました。

歯は歯肉上皮を貫通して体の外に露出している組織であり、絶えず細菌に晒されています。本研究で焦点を当てている接合上皮は歯肉上皮のひとつであり、歯頸部で歯に直接接着することで体外からの口腔内常在菌やその代謝産物(毒素など)が生体内へ侵入・拡散することを防いでいる組織です。私が行った研究では、接合上皮細胞が分裂しその子孫細胞が細胞集団(クローン)として形成されるまでを経時的に追跡することで接合上皮固有の幹細胞由来のクローンの存在を明らかにしました。本研究結果は、歯周組織の恒常性と再生に関するメカニズムの探求の基盤になると考えております。

今回、このような荣誉ある賞を頂き、大変光栄であるとともに今後の研究活動により一層精進したいと考えております。

最後になりましたが、本研究に携わっていただきました口腔病理学部門の美島健二教授、田中準一先生、歯周病学講座の山本松男教授、相澤怜先生をはじめ多くの方々この場を借りて心より感謝申し上げます。



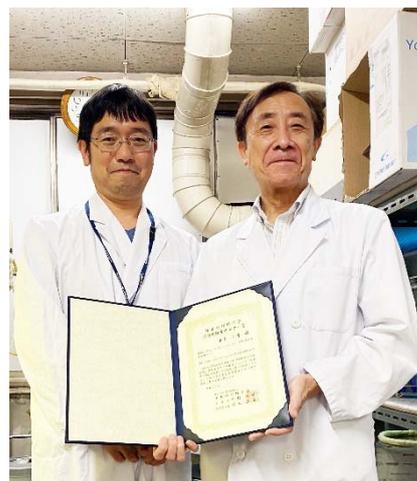
令和3年度日本口腔科学会で優秀ポスター賞を受賞しました

大学院4年(口腔生化学専攻) 木下 三博

令和3年5月12～14日(ポスターはWeb発表5月20～31日閲覧)、大阪府の千里阪急ホテルにて開催された、第75回日本口腔科学会において研究発

表をさせていただきました。平成3年に本学を卒業し、骨増生とインプラント治療を中心とした臨床に携わってきましたが、骨形成を分子生物学的に解明すべく、縁あって現在、口腔生化学講座にて研究を行っています。私は「PMAによるNephronectinの発現制御機構の解明」という演題で発表をさせていただきました。発表準備は入念に行ってきたつもりでしたが、直前にポスターサイズの変更があったこともあり、レイアウトの変更および空きスペースへのデータ追加等にかなり苦慮いたしました。おかげさまで優秀ポスター賞を受賞することができて、大変うれしく思います。

これ迄、ご指導下さった口腔生化学講座の上條竜太郎教授と山田篤講師、そして多くの先生方と関係者の方々に心より感謝申し上げます。今後ともご指導・ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



指導医・専門医取得

広報委員長 野中 直子

日本歯周病学会 指導医

小出 容子 (昭和大学歯周病学講座 講師)

日本歯科麻酔学会 専門医

石田 碧 (昭和大学歯科麻酔科 助教)

山田 めぐる (昭和大学歯科麻酔科 助教)

編集後記

歯科理工学部門 堀田 康弘

コロナ禍が続く中、オリンピック開催も間近に迫り、世の中があわただしくなってきました。より一層の感染対策を講じて、頑張っていきましょう。今から、オリンピック後の後期授業や実習に支障が無いことを祈るばかりです。今回も、ご多忙の折にもかかわらず、ご寄稿下さいました先生方に、心から感謝申し上げます。

